

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年6月29日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103946
法人名	株式会社 ショコラ
事業所名	グループホーム うすき
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿7丁目14番3号 (電話) 099-275-7075
自己評価作成日	平成30年5月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年6月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、宇宿の閑静な住宅地に立地しており、直ぐ近くに医療機関(しよこらクリニック)やスーパー等があり、ご利用者様にとっては恵まれた環境の中にあります。ショコラグループとしてグループホームなごかり、小規模多機能ホーム、共同託児所(ぶちショコラ)、かごしまショコラ保育園、しよこらクリニックの事業も行っております。同施設内に共同託児所(ぶちショコラ)が併設しており、子供達との交流を取り入れ、楽しんで頂いている中で、ご利用者様の日常生活における活力をもたらし、生き甲斐や心の充実に繋がる環境作りにも取り組んでおります。又、スタッフにおきましては、「今日が最期の日」という気持ちで、一日でも長く楽しい時間を過ごして頂ける様に一同日々努力をしております。ご利用者様とご家族様との絆や関係作りを大切に、より良い時間の提供も行っております。又、施設内での日々の生活を解かって頂く為に、日々の様子や活動参加中の様子を写真撮影し、ご家族様に閲覧して頂いたり、ショコラ便り(事業所新聞)に添えて毎月配布致しております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○当ホームは、近隣企業との共同経営の託児所があり、入所者とは、音楽活動や触れ合いの時間を通じて交流活動を積極的におこない、幼児の情操教育、協調性の向上につながっており、併設のデイサービス利用者とのレクリエーション活動や合同での行事活動を通じて、馴染みの関係継続を支援するなどしている。そのため、デイサービスを利用されていた方が入所になるケースも少なくない。

○献立は、管理栄養士が作成し栄養成分値をグラフ化・分析し、年2回開催される家族会で報告している。また、食のアンケート調査も実施して嗜好を把握し、食事が楽しみになるよう献立に取り入れている。家族会では、利用者と家族が食卓を囲む機会も設けており、家族も満足している。また、行事食にも力を入れており、誕生日にはリクエストメニューを提供したり、お好み焼きやホットケーキ、巻き寿司などを利用者と一緒に手作りして楽しんでいる。外食は、ソーメン流しに行ったり、家族と個別に楽しんでいる。また、花見の際には、弁当を楽しんでいる。地域からの差し入れもあり調理に活かしている。

○人事考課システムがあり、年2回職員の自己評価を実施、代表者と管理者との三者面談を実施し、職員の意見、提案を聞く機会を設けている。職場環境が良く離職も少ない。資格重視でなく職員個々の努力や実績、勤務態度などを総合的に把握したり、休憩時間が確実に取れるよう配慮している。また、「本日のちょっといい話」ノートを回覧することで職員の勤労意欲に繋がっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で理念に基づく経営方針を盛り込んだ「行動手帳」を唱和励行し、互いに意識付けあい ケアに繋がる理念の実践に取り組んでいる。	各ユニットごとに理念があり、行動手帳を基調とした毎月の目標達成に向けて取り組むとともにミーティングで話し合い、年1回理念を振り返る機会を設け理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事へは職員だけでなく、可能な限りのご利用者様も一緒に参加して頂いている。又、地域住民の方によるボランティアを招いて踊り会、でっち会（詩吟）、ハッピーワーカー等、開催する事で地域住民の方との交流を図っている。	地域の総会や回覧版、運営推進会議などを通して、地域の情報収集をおこない、清掃活動や地域の行事に参加したり、小・高校性や他ボランティアの受け入れ、また、校区のまちづくり等の取り組みに協力するなど地域の一人員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域町内会等の話し合いに参加して、日常的に地域住民の方との交流を行う事で、情報提供や情報収集し易い環境作りに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族様へ年2回のアンケート調査を実施、このアンケート調査は回答し易い様に無記名とし、又返信用封筒の同封を行っている。頂いたご意見については、運営推進会議にて報告、話し合いを行い、改善している。	毎回、家族全員に会議への参加を呼び掛けており、なるべく家族が参加しやすいよう日程調整したり、家族会と同時開催するなど工夫している。また、メンバーから希望があればミニ研修を実施し認知症や口腔ケアなどの知識や情報が共有できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会合等、案内がある場合には積極的に参加している。又、ホームページ等の閲覧を行い、サービスの向上に努めている。	職員は、市担当者や福祉事務所職員と日頃から電話や面談などで連携を取り、互いに協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センターからは、待機状況の確認や入所の相談などあり適切に対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束廃止の研修を行っている。研修を通して身体拘束に対してスタッフの理解を促し、取り組んでいる。20:00以降は防犯の為に玄関入口施錠している。	年1回は、身体拘束委員会を中心に研修会を実施、職員の意識向上を図り、身体や生命保護のため、必要があってもやむを得ず拘束をする場合でも、身体拘束の三原則を踏まえ廃止に向けて職員全員で取り組んでいる。徘徊感知機器の活用についても、必要度合いにより、早期に廃止したり介護計画に位置づけて、モニタリング結果を参考にし、必要性や代替性等について検討するなど拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされないことがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修において、高齢者虐待防止法を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修において、地域福祉擁護事業や成年後見人制度を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。入居者様の中で必要な方はそれらを活用出来る様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>十分な説明を行い、不安や疑問点がない様にその都度確認を行い、納得して頂いた上で契約に関する行為を進める事に留意している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご入居者様に対しては、日々の生活の中で自然に思いを話して頂ける様な対話（傾聴）に心掛け、ご家族様に対しては、年2回のアンケートと共に、面会時、又ご連絡時、伺う様に努めている。</p>	<p>年2回の家族会の話し合いの結果やアンケート結果をケアの向上やサービスに活かすよう取り組んだり、家族が自由に意見や要望などが出しやすいよう職員との関係性を良好に保ちコミュニケーション活動に努めている。職員は、運営推進会議と家族会を同時開催するなどしてより活発な意見交換などができるよう支援している。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>年2回 職員が書面にて会社を評価する機会を設け、又、面談にてそれぞれの意見を聞く機会を設け、改善している。</p>	<p>職員は、年2回自己評価し法人代表や管理者と三者面談している。事業所は、職員教育にも熱心に取り組んでおり、資格取得だけでなくスキルアップを図るための研修会も充実している。職場環境も良好で、離職も少ない。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職場へ定期的に足を運び、状況把握と共に、職員とのコミュニケーションも取っている。給与に関しては、資格重視ではなく、職員本人の努力・実践・勤務状況・多職員からの評価も考慮した上で決める体制としている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社の年間計画を基に、毎月定期研修や勉強会が実施されている。更に、ケアの質の向上を目指してスタッフ向けのスキルアップ勉強会を月に2回実施している。新人職員に対しては、主任が中心となり、育成する体制をとっている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者、職員との研修会・食事会の機会を設け、意見や要望を伝えたり、又職員からの意見・要望も聞き、相談し易い環境作りを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず職員が見学、訪問行い、その中でご本人様の不安・要望を細かく伺い、受け止めて行く努力をしている。又、他の介護保険サービスの説明をするように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に対しても上記同様行い、理解・納得して頂く様な充分な話し合いを何度も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様にとっては何が今一番必要な事かを考え、援助の方法を含め 対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の好きな事、得意な事を引き出し、長年の知恵や技を教わりながら、ご本人様の尊厳に配慮し、一緒に過ごして行く様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪（面会）の折、又電話にて本人様の状況報告を行い、必要な事をご相談行っている。「ジョコ便利」を通して毎月の行事内容も知って頂き、ご家族様の参加をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様へご案内する行事等では、親類縁者様、お孫様（ひ孫様）ご友人様等幅広くお知らせを行い、馴染みのある方々との交流を提供している。	職員は、お達者クラブの方の慰問や知人、友人の方の面会、兄妹面談の家族交流を支援したり、隣接のデイサービスや託児所での交流活動を促進するよう努めている。また、近隣の行きつけの店を利用される方もあり、地域の方との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士の相性や関係性等の配慮に心掛け、心地良い時間を過ごして頂ける様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時の情報や、その後も必要な方に対しては、継続的な支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「その方らしい生き方」「その方が望む生活」を深く考え、介護者の自己満足にならないケアを行う事に心掛けている。	職員は、本人が主体的に暮らし、希望する生活が実現するよう本人の言葉や行動、家族からの情報を参考にして、ミーティングで話し合い、本人の思いを汲み取り気持ちを確認しながら本人らしい生活ができるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所される前にご家族様や全施設での生活情報の収集を行い、又、見学行う事で状態把握が出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝・夕時の申し送り事項や月1回のミーティングにおいて、ご入居者様の状況・状態を話し合う場を通して、より良い今後のケアに繋げている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を重視し、担当者会議の中では職員も意見を出し合いながら、ご入居者様 本位の介護計画の作成に心掛けている。	アセスメントの結果は、介護計画に反映されているが、身体拘束の廃止に向け計画的に人感センサーを活用している方がおられ、毎月のモニタリングの実施、ミーティング、担当者会議などでケース検討をおこない、漫然と使用することなく、本人の主体性が発揮できる生活の実現を目指している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについては、個別サービス記録により、状態の変化を継続的に見る事が出来る。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	建物内に通い（デイサービス）や同施設近隣に小規模多機能施設も備えており、在宅復帰された後も慣れた空間を継続的にご利用出来る様にしている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防隊員を交えての消防訓練を年2回 ご入居者様、ご利用者様と一緒にやっている。地域ボランティアの方の参加により、イベント等を行い、楽器演奏や踊り会を行い、地域に開けた施設を目指している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の意向を第一にかかりつけ医の選択は行っており、医療機関への受診はご家族様同伴を基本としている。必要時にはご家族様の了承のもとで職員が同行を行っている。	母体の医療機関の訪問診療や外来診察やオンコール体制があり、切れ目なく適切な医療が受けられる体制が構築されている。また、家族に協力をもらいながら他科受診できるよう協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師がご入居者様全員について把握出来る様に、訪問看護記録を作成、ファイル保存行い、又職員からの相談に乗れる様な環境作りに努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>協力医療機関との連携を図り、緊急時の受け入れ体制を整えてもらい、又、入院時の経過報告等の随時連絡行う。並びに早期退院へ向けて情報提供書の送付を受けている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期においては、ご本人様、ご家族様の意向を第一に考え、事業所内「緊急時対応及び看取りに関する指針」にて方針を定めている。その際は医療機関、ご家族様と密に連絡、細かな報告行い、支援行っている。</p>	<p>指針があり、「急変時や看取りについての事前確認書」「終末期ケアについての同意書」が文書化されている。管理者や職員は、重度化し看取りに至る経過の中で、事業所体制を踏まえ、利用者や家族の希望に寄り添い、可能な限りホームでの自然な看取りができるよう検討し取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>ご入居者様の急変時、事故発生時の対応に関しては、施設内での研修を行っている。（上記指針より）又、消防署主催の普通救命講習会を受講している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回行われる消防訓練において様々な状況を想定しての訓練に取り組んでいる。</p>	<p>昼夜想定避難訓練を実施、毎月19日、消防署の訓練には、職員が参加し避難訓練に活かしている。脇田分遣隊の定期巡回も多く、2階託児所の子ども達との合同避難訓練も実施、2階は非常階段からの避難が課題なため、現在、「梯子タイプ」の避難方法を検討中である。水やレトルト食品などの備蓄もある。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人様のお話しの傾聴、言葉かけ、対応を心掛けている。居室は個室対応にてお一人の時間も希望があれば、過ごして頂く。又居室で対話も行っている。	全室、居室入口にのれんが掛けてあり、扉は本人の希望に応じて閉めるなどプライバシーに配慮している。職員は、年3回、接遇マナー研修にて知識や技術力を研鑽しており、言葉の使い方には特に気をつけるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望、思いを引き出す為の普段からの対話を行い、環境作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操、個別運動、散歩等々一日のその方の流れを作りながら、その日の体調等に合わせ参加して頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ホームでの出張カットを2か月に1回利用されており、洋服等は主にご家族様がその方に似合う物を用意して下さる。清潔感のある整容に心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の食事に関しては、目でも楽しんで頂く為の食器(陶器類)又、手の不自由な方に対しては軽い食器での提供、盛り付け方に気を配り、ご本人様の誕生日、行事等では特別メニューを用意する。野菜の下ごしらえから小鉢の盛り付け、後片付け等一緒に行っている。	管理栄養士が献立表を作成、栄養成分値をグラフ化・分析し、家族にも好評で野菜も多く使われている。冬場は、月1回調理レクがあり鍋料理を楽しんだり、お好み焼き、サンドイッチの手作り、巻き寿司を自分で巻いて食するなど食への楽しみを支援している。誕生会や外食は、家族に協力をもらい一緒に食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士により、カリ計算されており、日々の摂取量の記録と月1回の体重測定を実施している。又、ご入居者様の嚥下状態に合わせた食事形態の工夫、更に介護食品も取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。一人一人に合わせ歯磨きの促し、介助行っている。必要に応じては、歯科往診依頼行い、居室で往診を受けて頂き歯科医師からの助言を受けて、実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人お一人の排泄パターンを把握し、状態に合わせたパット類の検討を行っている。トイレ使用の声掛け、本人様希望のトイレ案内行う事で、気持ち良く排泄して頂ける様に支援している。	夜間使用する時にポータブルトイレを居室に設置するなど、環境やプライバシーに配慮したケアに努めている。布下着の方も多く、排泄のリズムや定時に誘導してトイレで排泄ができるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況（毎日の便の状態・量の記録）を通してその方の状態把握を行っている。水分摂取の声掛け、運動の実施、腹部マッサージ行い、便秘予防に心掛けている。食事の野菜も残さず食べて頂ける様にお声掛け、促し行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には、月水土と決まってはいるが、その他でも本人様の希望があれば入浴可能である。足浴、手浴も行い、入浴困難な方へは清拭施行している。	午後からゆっくりと入浴していただけるよう支援しており、同性介助に配慮している方もおられる。利用者は、広い浴槽で温泉気分を満喫するなど入浴を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	年齢や身体状況を把握し、お昼寝希望の方へはゆっくり休んで頂ける時間の提供、体調不良の際は、臥床の促し・支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表を個人ファイルに添付行い、又、服薬変更の際はその都度申し送り行う。職員全員が、ご入居者様個々の薬の目的、副作用、用法・用量について目にする事が出来て、それに伴い病状の変化に気づける様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事時の盛り付け・後片付け、洗濯物たたみ、掃除等々得意な事をして頂き、園芸や作品作りの趣味も取り入れ、日常生活を楽しんで頂ける様にしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日等には、気分転換や体力作りを兼ねて一緒に外へ出る機会を出来るだけ多く作る様にしている。年間行事を立て、外出先にご入居者様やご家族様と出かけられる様にしている。	春秋の花見見物や遠足、夏場は地域の夏祭り、近隣の公園への外出や買い物外出など年間の行事計画を作成し、計画的に外出支援をする場合もあれば、その日の利用者の体調や天候、スタッフの勤務状況によりドライブに出かけることもある。また、普段は近隣を散歩したりショッピングに行くなど日常的に外出を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご入居者様、ご家族様との話し合いを設け、ご入居者様の力量、希望に応じて支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>贈り物があつた時や、ご希望の時にお電話して頂ける様に支援したり、季節のお便り（暑中見舞い、年賀状）を書く機会を設けている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>プライバシーに配慮する事は勿論、飾り付けやお花を飾ったりして、ご入居者様に季節を感じて貰える様にしている。ホールと台所が隣接している事もあり、洗い物を行う際は、ご入居者様へ不快感を与えない様に、不適切に音を立てない様に心掛けている。</p>	<p>1階ユニットにはデイサービスが併設しており、2階は託児所が隣接している。対面式キッチンで、大型テレビの前にはソファが配置され、畳スペースは、洗濯物畳みにも活用されている。壁には習字や季節の花の折り紙の作品が掲示され季節感を与えてくれる。採光もあり温度管理がされ居心地よく過ごせるよう配慮されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和気あいあいと過ごして頂ける様にソファを置いたり、ホールMTV前には畳台もあり、好きな所でお好きに過ごして頂ける様にしている。冬場の窓越しの日向ぼっこも提供している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご入居者様が使っていた馴染みの家具を使用して頂いたり、装飾品を飾って頂いたり、ご家族様とも相談行い、本人様が居心地良く過ごせる様な工夫をしている。</p>	<p>エアコン、ベット、洗面台は備え付けであるが、それ以外は本人の馴染みの物を持ち込んでいただいている。家族アルバム、位牌、テレビなどあり、使い慣れたソファに座り、趣味の読書をのんびりとされる方もおられるなど居心地よく過ごせるよう工夫がされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>「安全で使い易い」を念頭に置いて、トイレや浴室等に手摺を付けている。動線には、物を置かない様にし、安全に歩行出来る様にしている。「トイレ」の文字をトイレドアに貼り付けて、トイレの位置の理解と使用目的の理解を工夫している。</p>	/	/



## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない